

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

どのようにして「群馬」という名になったのか

～ 群馬 の ルーツ ～



YOTSUBA  
GAKUEN

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 4組 30番

氏名 前原 颯太

( 返却希望 )

# 1. はじめに

群馬県には、埴輪や古墳がたくさん残っている。

群馬県は古代栄えていた国だったらしい。先生から東国文化自由研究について聞き、前から気になっていた埴輪について調査してみることにした。

埴輪は、「古墳の上や周囲に並べられた焼き物」と定義される。埴輪の「埴」は粘土、「輪」は輪の様に粘土のひもを積み上げて作られたことに由来する(図1)。

縄文時代に作られた土偶と似ているが、異なるものだ。埴輪は古墳から出土され、さまざまな形をしており、被葬者の権威を示すために作られたもの。

一方、土偶は、縄文時代の集落から出土され、女性の形をしており、安産を願うために作られた。

また、群馬県の埴輪は馬が多いそうだ。実に、群馬県から出土された動物埴輪の90%が馬の埴輪らしい。さらに、馬の埴輪が多いことが「群馬」と関係があるというのだ(図2)。

群馬と馬の埴輪の関係について調べれば、昔の群馬が栄えていた理由が分かるかもしれない。

そう思った私はそのことについて調べることにした。



図1

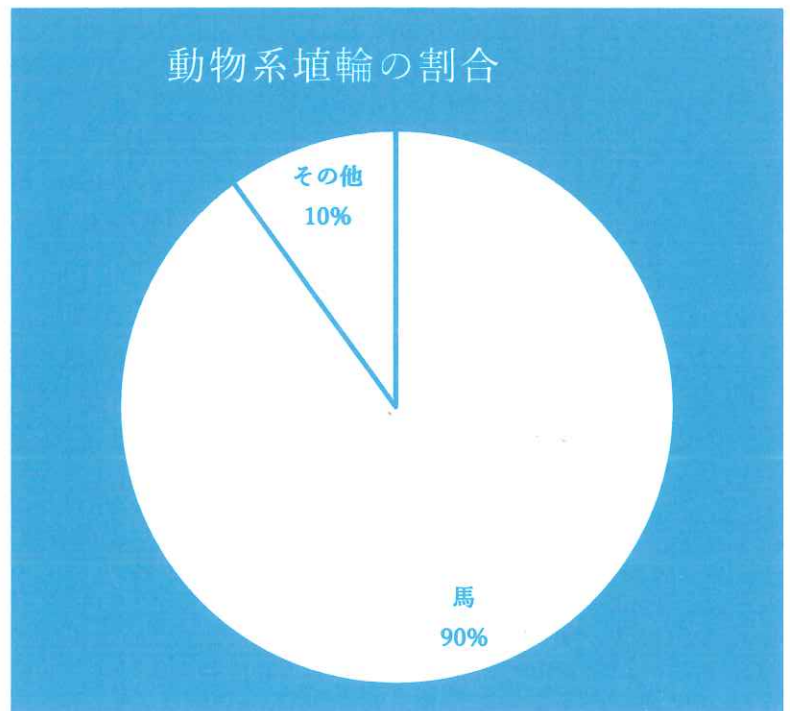


図2

## 2. 調査方法

2022年8月11日、私は友人とともに「群馬県立歴史博物館」へ足を運んだ（図3）。博物館では様々な種類の埴輪が展示されていた。実際に馬埴輪の展示もあった（図4）。

本当に馬埴輪と群馬という名前が関係あるのか、私は学芸員さんに質問してみることにした。

学芸員さんにたくさんのことを教えていただくことができた。



図3



図4

### 3. 調査結果

#### 3-1 群馬のルーツ 群馬郡

現在、群馬は、「ぐんま」と呼ぶが、かつては「くるま」と呼んでいたようだ。昔、上野毛国（かみつけのくに）のなかに車郡（くるまのこおり）と呼ばれる郡があり、それが群馬という名前のもとになるようだ。

713年に好字令（国名、郡名、郷名を二文字にせよという令）が発令され、  
上野毛国→上野国  
車郡 →群馬郡 と改変された。

群馬がどうして車になったのか。それは上野の人たちが馬に誇りを持っていたからだ。「群れる馬」で二文字、群馬。少し無理やりだったが、役人は群馬郡として、郡を作った。

そして、時は「廃藩置県」。  
当時、明治政府は高崎を県庁所在地にし、高崎県とする予定だった。  
しかし、当時高崎と同規模の大きさを誇る前橋への配慮で、二つの町があった群馬郡を県名にしたようだ。図5は、現在の地図に当時の群馬郡の範囲をあてはめたものだ。たしかに、高崎と前橋が群馬郡の管轄下にあることがわかる。  
現在、群馬郡は消滅してしまっている。

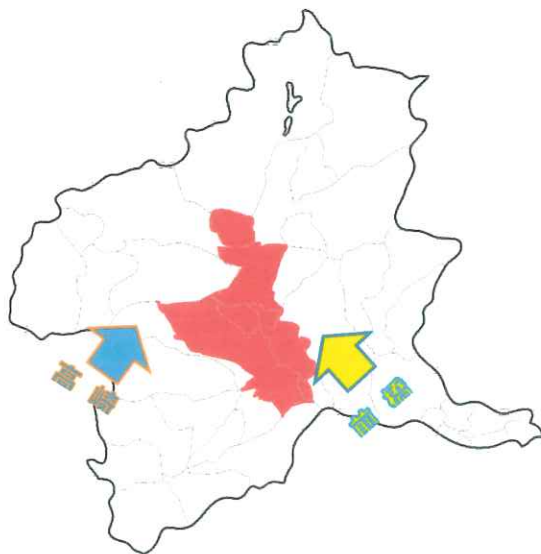


図5



### 3-2 車郡のもとになった車持氏

車郡が車となった理由は当時、車郡にいた豪族に由来する。

その豪族は「車持（くるまもち）」という名で、天皇の御者（馬を操縦する人）だったそうだ。つまり、天皇のドライバーだったわけだ。

調べたところ、高崎市十文字に「車持神社」という神社があることが分かった。

そこで、車持君をたずねに神社へ参拝しに行った。

山の中にそびえる、まさに「秘境」という場所（図6-1,2）。

境内の中に石碑があり、車持神社の成り立ちが記してあった。（図7）



図6-1



図6-2



図7

意味

創立年月日は詳らかではないが、**上野国神名帳所収の従五位上車持若御子明神**は現在の車持神社である。当社は**車持公の遺徳を追慕**し、**緑の地に崇祀勧請したもの**と伝えられている。車持公は上野野君豊城入彦命の後裔射狭君の末裔で榛名山東麓一帯を統治していたことから、**この地は車の里と呼ばれていた**のである。雄略天皇のとき**乗輿を作り献上したことにより、車持の姓を賜わり、以来子孫はこの地に居住し、善政を施したのでやがて地名にまでなつた**という。  
—略—



乗輿は、天子の乗る乗り物のことだ。天子とは天皇などのことをいう。  
当時の天皇の乗る乗り物、つまり馬だ。車が地名になったことも記してあった。

川の名前に当時の地名が残ることはよくあることだ。  
その証拠に、車持神社の道中に「車川」が存在した（図8）。  
車がここにあったのだということを、肌で感じた。



図8





上毛三碑の金井沢遺跡にも  
車郡があったことが記されている  
(図9)。

図9

パソコンの字体の関係で書くことが  
できなかったが、群馬は当時

「君  
羊」

と、縦に書いていたようだ。

上野国群馬郡下賛郷高田里  
三家子 ■ 為七世父母現在父母  
現在侍家刀自他田君目頼刀自又児加  
那刀自孫物部君午足次蹄刀自次若蹄  
刀自合六口又知識所結人三家毛人  
次知万呂鍛師儀マ君身麻呂合三口  
如是知識結而天地請願仕奉  
石文  
神龜三年丙寅二月廿九日



### 3-3 馬が群馬で飼育された理由

魏志倭人伝に、「日本には馬がない」ということが記されていたらしい。  
朝鮮から渡来人によって馬がやってくる。  
各地の豪族はいい馬をわがものになりたいと、各地の馬を探した。  
当時、馬を飼育していた場所は、「群馬」「長野」「大阪」のみだった。

では、なぜこの3つの地で馬を飼育していたのだろうか。  
大阪は都だったからで、長野と群馬は土地的に優れていたからだ。

二つの地の共通点は河岸段丘があることだ。  
河岸段丘は台地の一種で、平坦な場所と崖上の場所が階段上に連なっている地のことだ(図9)。

平野では川が蛇行を繰り返すように進んでいる。その中でできるのが氾濫原だ。  
このとき、川の流れによって削られて崖のようになったのが段丘崖だ。  
何らかの影響で河川の流路が変わったときに、高いところは段丘面となる(図10)。

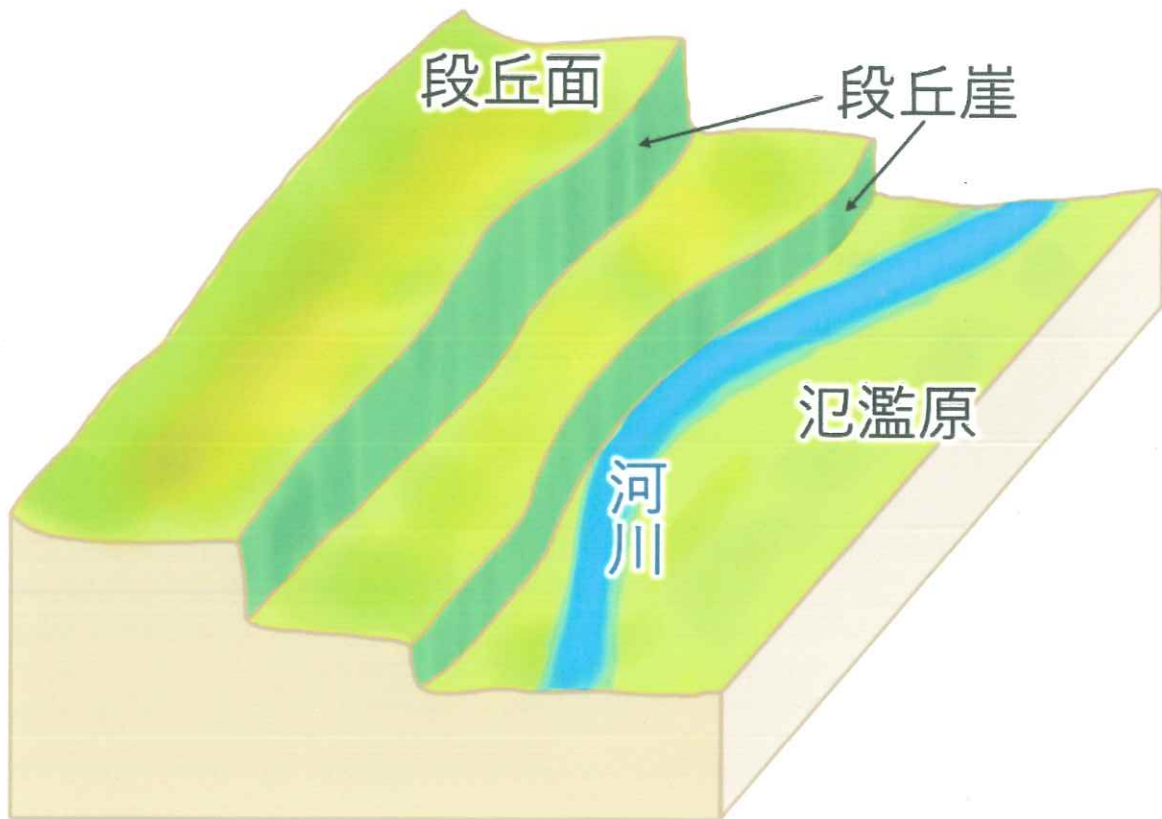


図10

河岸段丘で、馬を育てていると、段差によって馬が出ていかないそうなのだ。(図 11)

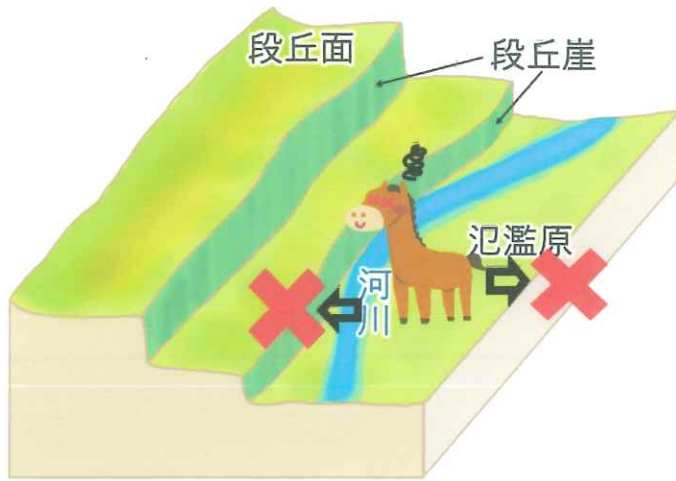


図 11

しかし、河岸段丘は各地にあるが、どうして長野と群馬なのか。

ここから記すことは推測として話していただいたことになる。

それは「塩」に理由があった。長野と群馬には塩分を多く含む温泉があったのだ。

馬を育てるにはたくさんの塩が必要なのだそうだ。

海とは違う、質の良い塩がとれるらしい。

現在でも長野県では塩を採取する温泉があるそうだ。

群馬で馬を飼育していた証拠に、渋川の黒井峰遺跡がある。

黒井峰遺跡には長細い馬小屋が見つかったのだ。民家よりも大きいサイズだった。

馬の足跡も見つかっている (図 12)。

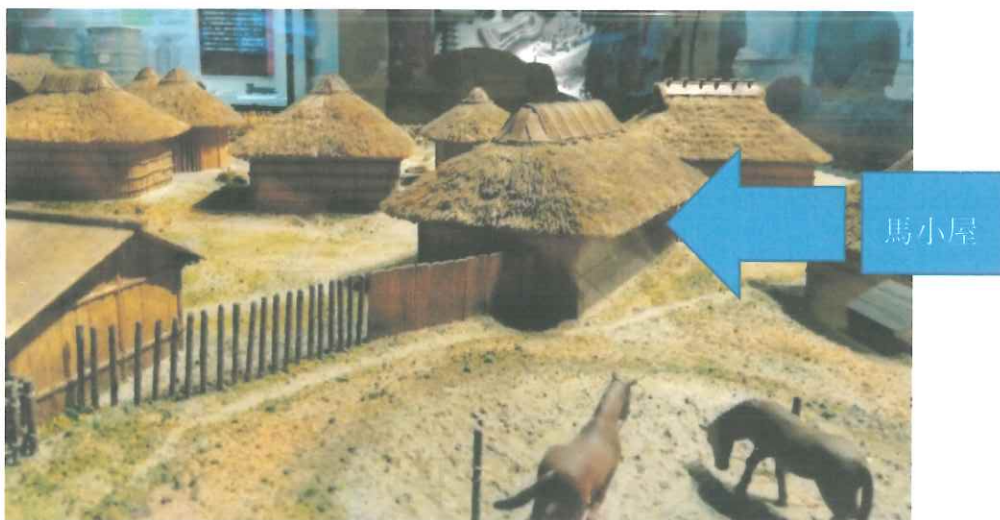


図 12

## 4. まとめ

群馬のルーツを探ってみたが、思いもよらぬ歴史が見つかった。  
いままで何気なくはがきや書類に地名を書いてきたが、こんなに深い意味があるとは思わなかった。

きっとほかの地域にも地名のこうした由来があるはずだ。

たくさんの方が土地の由来を知ってほしいと思う。

知ることによって地域のことをより大切にできる気がするのだ。

また、車川のように川や山に当時の地名が残ることもある。

なにかの拍子に名前は消えてしまう。

群馬県となったことで「群馬」は残ったが、もし高崎県となっていたら消えゆく名前となっていたはずだ。

この名前を呼んでいるのは私たちの世代だけかもしれないのだ。

だからこそ、名前の由来を理解し名前を大切にしていけることが重要だと思う。

取材に協力してくださった方々、本当にありがとうございました。

### 〈参考文献〉

群馬県立歴史博物館 『解説シート 上毛三碑を読む』

群馬県『東国文化副読本～古代群馬を探検しよう』、2022年

群馬県『東国文化副読本～古代群馬を探検しよう』、2020年

コトバンク「乗輿とは」、アクセス日 2022年8月20日、

<https://kotobank.jp/word/%E4%B9%97%E8%BC%BF-533547?adlt=strict&toWww=1&redig=BEFF2915BC9C4132AA92565F160C7379>

「河岸段丘と海岸段丘のでき方をマスターするたった2つのポイントとは？」

最終更新日 2021年4月18日

<https://juken->

[geography.com/systematic/terrace/?adlt=strict&toWww=1&redig=38EAF26915FD49EA9AE84795EA206124](https://juken-geography.com/systematic/terrace/?adlt=strict&toWww=1&redig=38EAF26915FD49EA9AE84795EA206124)

ウィキペディア「群馬郡」、最終更新日 2021年11月23日

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%A4%E9%A6%AC%E9%83%A1>